

平成25年度 小学部自立活動について

1 小学部の教育目標

今年度の小学部の教育目標は「身辺自立をめざして」である。具体的には「元気な子」(体力・あいさつ)「やさしい子」(コミュニケーション力・他と関わる力)「やりぬく子」(忍耐力・集中力)の3つの重点項目をあげて指導、支援に取り組んでいる。どの力も早い段階で基本的な力を培っていく必要があり、小学部の段階では不可欠なものである。

また、本校ではほとんどの児童生徒が寄宿舎で生活をしており、日常生活の指導に関しても、「自分のことは自分です」(排泄・食事・着替え)という柱を立てて取り組んでいる。



2 小学部の教育課程

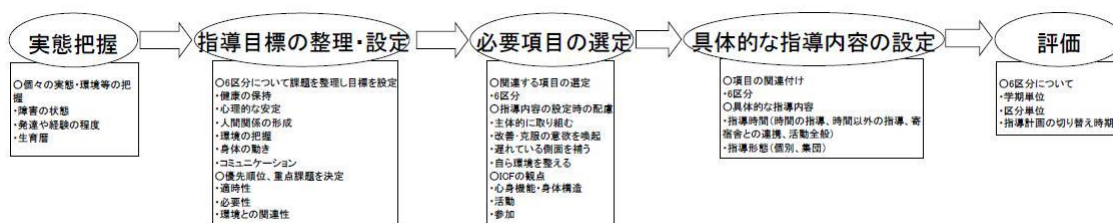
小学部では、「朝の活動」「日常生活の指導」「朝の運動」「課題別学習」「森っこタイム」「わくわくタイム」「体育」「音楽」「図工」「生活単元学習」等の時間を設け授業を行っている。どの時間にも児童の実態に合わせて自立活動の要素は入っているが、特に「課題別学習」は自立活動中心の授業として位置づけ、指導、支援を行っている。重複学級に関しては、「朝の運動」を自立活動として主に身体についての学習を行っている。また、抽出指導を行っている児童もいる。形態は、集団または個別であり、指導者に関しても担任もしくは自立活動専任教員が行っている。

＜単一学級＞ ＜重複学級＞

曜日	月	火	水	木	金
9:00	登校				
9:15	朝の活動(朝のしたく、係活動、朝の会)				
9:30	朝の運動(からだづくり)				日常生活の指導; 運動; 朝の運動
9:30	日常生活の指導(準備、排泄、余暇)				山歩き 日常生活の指導
9:45	課題別学習(個別)自立活動、国語、算数 (重複学級は個別の自立活動)				
10:30	日常生活の指導(準備、排泄、余暇)				課題別学習(個別)自立活動
10:45	森っこタイム(グループ) 国語、算数、自立活動		わくわくタイム (あそび)	体育	日常生活の指導 山歩き
11:30	日常生活の指導(排泄、着替え、余暇)				
11:45	給食準備(当番、手洗い、身支度)				
12:00	給食、歯磨き、休憩、余暇				
13:15			帰りの活動		
13:30			下校		
14:15	12年生生活単元学習 遊び	3~6年生生活単元学習 遊び	12年生生活単元学習 遊び	3~6年生生活単元学習 遊び	音楽 図工
14:45	帰りの活動(掃除、帰りの会)				遊び 学部掃除
15:15			帰りの活動(掃除、帰りの会)		下校

3 自立活動の取り組みについて

小学部では2年前から自立活動を研究テーマに選び取り組みを重ねてきた。まず、最初に取り組んだのが実態把握である。適切な実態把握と分析、様々な視点や価値観からの検討、共通理解などをテーマに取り組んだ。具体的には、児童を一人ずつ取り上げ、学部全員でKJ法による情報交換を行い、その情報を基に児童の担当教員を中心に実態把握のための相関図を作り上げた。児童のもつ課題やその原因と考えられるものを全員で検討することで、様々な観点から児童を見ることができ、人によって感じ方やとらえ方の違うことを実感するとともに、幅広い見方、感じ方を学ぶことができた。職員がお互いに情報を出し合い、意見を交換することで、自然に共通理解を図ることができ、文字で読む以上の物が残っていくことで、より良い実践にもつながってきている。



実態把握ができたところで、自立活動指導計画、自立活動課題表を作成し、自立活動に取り組んでいる。小学部では前述のとおり日常生活の指導を中心に各教科、合わせた指導等学校生活全般に自立活動が位置づけられている。また、少人数のため学部全体で活動する場面が多くあるため、児童の担当、担任だけでなくすべての教職員が様々な場面で指導に当たっている。そのため、共通理解しておくことが必須となってくる。

4 今後の課題

今年度、自立活動指導計画、自立活動課題表について全学部共通したものを作成し取り組んでいるが、活用についてはまだまだ試行錯誤の段階である。特に、小学部においては児童の実態や課題の共通理解が大きな課題になっている。実態把握、指導目標、課題それぞれの段階で共通理解をしながら進めていくことが理想ではあるが、物理的な時間の問題や効率化を考えていくと困難な部分も見えてきた。その中で作成された文書をいかに活用していくかがこれから研究しなければならない課題の一つと考える。教職員が直接対話をしながら共通理解を進めていく部分は最大限確保しながらも、それを補う形での文書の効果的な活用を考えていきたい。また、小中高及び寄宿舎と連携を図りながら取り組んでいく中で、小学部の自立活動はどうあるべきなのか、その方向性も探っていききたい。

自立活動指導力向上事業実践報告（資料）

岡山県健康の森学園支援学校
小学部 田中 翼

☆本児の課題

人を押して他者の注意を引いたり、他者の臭いを嗅いだりする様子が見られる。また、意思の伝達が上手くできず泣くこともある。これらの様子から、本児は他者とのコミュニケーションの際に困難を感じていると考えられる。

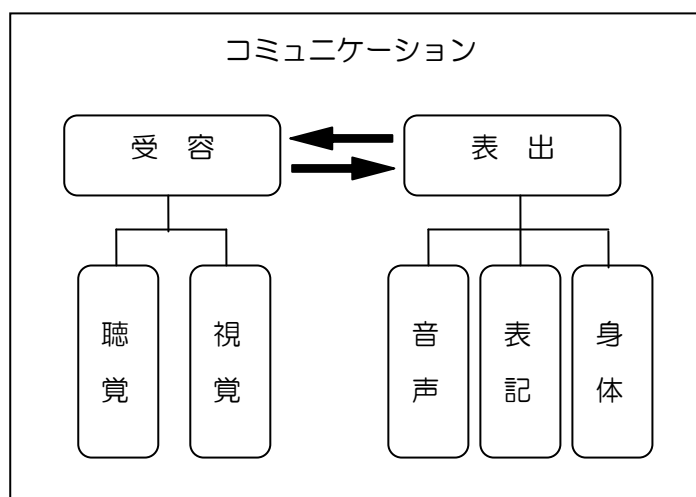
☆課題に対する仮説

本児のコミュニケーション能力の向上・改善を図ることで、より生活がしやすくなると思われる。そこで、コミュニケーションの課題の中から次の3つにしばって指導することで困難を克服できるのではないかと考える。①文字言語の獲得（入力文字言語、出力文字言語）：文字を見て情報を得たり、簡単な意思を文字にして表現したりすることで他者と意思の交換ができるようになるのではないかと考える。②出力音声の強化：言葉で伝えようとする意欲は感じ取れるが十分聞き取れるわけではない。気質的な問題を抱えているが、音声言語に関する訓練を積むことで少しでも構音器官の微細な動きや調整力を高め、聞き取りやすい言語になるようにしたい。③注目すべき所を見る力の強化：情報の多くは視覚から入ってくる。しかし、本児は注目すべき場所を選択・判断して見るのが難しい。そこで、本児が意欲的に見て活動できる課題に取り組むことで注視する力を身につけ、視覚からの情報入力能力を強化したい。

☆コミュニケーションの種類

- ◇ 受容（入力コミュニケーション）
聴覚：音声言語
視覚：文字言語、表情、シンボル（絵）

- ◇ 表出（出力コミュニケーション）
音声：音声言語
表記：文字言語、シンボル（絵）
身体：ジェスチャー、表情、代替ツール

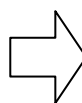


☆コミュニケーションの種類と実態

- ◇ 受容（入力コミュニケーション）
聴覚：・聴力（右：良好、左：0.5kHz 50dB は○、60dB は×。
3kHz 80dB は○、70dB 以下は×）※意欲も関係あるか？
 - ・検査法（新生児用オーディオメーター）
 - ・2語文程度の指示は理解できている。
 - ・音声と物（絵）のマッチングはできる。

➡ 音声言語の入力はできる。

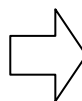
- 視覚：・視力（両眼眼鏡：0.7）
- ・検査法（絵カードのマッチング）
 - ・学習中眼鏡を使用。外斜視。
 - ・物（絵）と物（絵）のマッチングはできる。
 - ・教師の表情をうかがう様子が見られる。
 - ・文字（数字を含む）のマッチングはできにくい。
 - ・注目すべき所を注意して見ることができない。



文字言語の入力は困難。
シンボル（絵）の入力は有効。
表情の変化に気づく。
注視する力が不十分。

◇ 表出（出力コミュニケーション）

- 音声：・言語が不明瞭。
- ・発語しようとする意欲は高まっている。
 - ・口蓋裂の手術を受けた。



音声言語による出力は不十分。

- 表記：・文字を書くことはできない。絵を描くことはない。
- ・一画のなぞり書きはでき、意欲も高い。
 - ・文字と絵のマッチングは不十分。



文字言語による出力は困難。

- 身体：・ジェスチャーで意思を伝えようとする。
- ・教師の指示に従って、シンボルカードを選んで提示することができる。



シンボル（絵）での出力は有効。

☆身につけさせたい力

- ①文字言語の獲得。（入力文字言語、出力文字言語）
- ②出力音声の強化。
- ③注目すべき所を見る力の強化。
- ④カードによる意志表示能力。

☆身につけさせたい力への支援

◇文字言語の獲得

①入力文字言語

課題：文字（数字を含む）のマッチングができにくい。

仮説：・複雑な形の文字が認識できにくいのではないか。

- ・形に関する認知が低いのではないか。（図形）
- ・シンボル（絵）は1つで意味理解ができるが、文字1つでは意味を示さないからわかりにくいのではないか。
- ・言葉になると文字の集まりになるので、よりわかりにくさが強くなるのではないか。
- ・注目すべき所に焦点化できないのではないか。

支援：①形の認知を高める。
②シンボル（絵）と一緒に言葉をつける。
③注目させたい文字を白抜きにするなどの工夫をする。
教材：図形パズル、文字のマッチング、なぞり書き（図形）

②出力文字言語

課題：文字を書くことができない。一画のなぞり書きはできるが、「重なり」「結び」をなぞることはできない。

仮説：・空間認知が不十分なのではないか。
・認知しにくいなぞり書きシートになっていないか。

支援：①空間認知を高める。
②スモールステップ化した課題にする。

教材：積み木、プラレール、なぞり書き（文字）、画組みパズル

◇出力音声言語の強化

課題：言語が不明瞭。

仮説：・歯列、口蓋裂の影響があるのではないか。
・口周辺の筋力不足。舌の動きが悪い。息の使い方が苦手。

支援：①口や舌の動きがある活動に取り組む。
②発声のある活動に取り組む。

教材：シャボン玉、紙飛ばし、ロウソク吹き

◇注目すべき所を見る力の強化

課題：注目すべき所を注意して見ることができない。

仮説：・視覚から入ってきた多くの情報を整理できないのではないか。
・見るべき所を分かりやすく示さないと理解できないのではないか。
・コントラストによっては、見えにくさがあるのではないか。

支援：①注目させたい文字を白抜きにするなどの工夫をする。
②注視や追視ができる教材に取り組む。

教材：モグラたたき、MDケース、黒ひげ危機一髪

◇カード利用について

利用経験は少ないが、シンボル（絵）の理解はできているので、コミュニケーションの補助具として利用できるのではないかとと思われる。受容や表出の際に合わせて利用する。文字とシンボル（絵）を一緒に1枚のカードに示すことで、文字入力の補助としても使う。

小学部の自立活動

実態把握と実践について

小学部の教育目標と自立活動



小学部の教育目標と自立活動

		<単一学級>		<重複学級>			
曜日	月	火	水	木	金		
		登校					
9:00		朝の活動（朝のしたく、係活動、朝の会）					
9:15		朝の運動（からだづくり）				日常生活の指導：重複：朝の運動	
9:30		日常生活の指導（準備、排泄、余暇）				山歩き	日常生活の指導
9:45		課題別学習（個別）自立活動、国語、算数 （重複学級は個別の自立活動）					課題別学習（個別）自立活動
10:30		日常生活の指導（準備、排泄、余暇）					日常生活の指導
11:30		森っこタイム（グループ）		わくわくタイム		体育	
11:45		国語、算数、自立活動		（あそび）		山歩き	
12:00		日常生活の指導（排泄、着替え、余暇）					
		給食準備（当番、手洗い、身支度）					
13:15		給食、歯磨き、休憩、余暇					
13:30		帰りの活動					
14:15		下校					
14:45	12年生活単元学習	3～6年生活単元学習	12年生活単元学習	3～6年生活単元学習	音楽	図工	
15:15	遊び	遊び	遊び	遊び	遊び	学部掃除	
	帰りの活動（掃除、帰りの会）				帰りの活動（掃除、帰りの会）		
	下校				下校		

自立活動の取り組みについて

- 実態把握
 - ・ KJ法を用いて
- 目標の分析・決定
 - ・ 自立活動指導計画
- 課題の決定
 - ・ 自立活動課題表

今後の課題について

- 実態把握
 - 効率的に、効果的に
- 共通理解
 - 効率的に、効果的に
- 他部署、寄宿舍との連携
 - 即時性、見通し

A児の抽出指導について

○指導区分

- ・ 身体の動き
コミュニケーション

○時間設定

- ・ 週2回、30分間（学習2）

○指導者

- ・ 自立活動専任教員

A児の抽出指導について

○ 指導内容

- ・ 身体の動き

 - 歩行、体の使い方

 - バランス

 - 中間位の安定等

A児の抽出指導について

○指導内容

- ・コミュニケーション

 - 自分からの呼びかけ

 - 伝えたいことを表現

 - 手段の獲得

 - (音声・カード・ジェ

 - スチャー等)

A児の抽出指導について

○具体的な指導

(コミュニケーション)

- ・離れたところにいる相手に伝える (カード・音声)
- ・自分の気持ちを伝える (カード)

A児の抽出指導について

○ 児童の様子

- ・ 自分から相手に声で呼びかける、手でトントンとたたいて気付かせる等の動きが出にくい。

→場面によってはできる
時もある

A児の抽出指導について

○ 児童の様子

- iPadで選んで伝えることはできている
→他の場面で自分から伝えられるか

A児の抽出指導について

○ 今後の課題

- 手段の獲得
 - 複合的な手段
 - 効率的な手段
- 様々な場面への般化